

ボールの特性レポート

BALL REPORT



| | | |
|-----------------------------|---------------------|--------------------------|
| ボール名 トライデント・オデッセイ | 投球者 徳江 和則 | センター 平和島スターボウル |
| RG 2.490 | ΔRG 0.054 | ●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール |

テストボール：TRIDENT ODYSSEY

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤 番

比較対照ボール：TRIDENT HORIZON

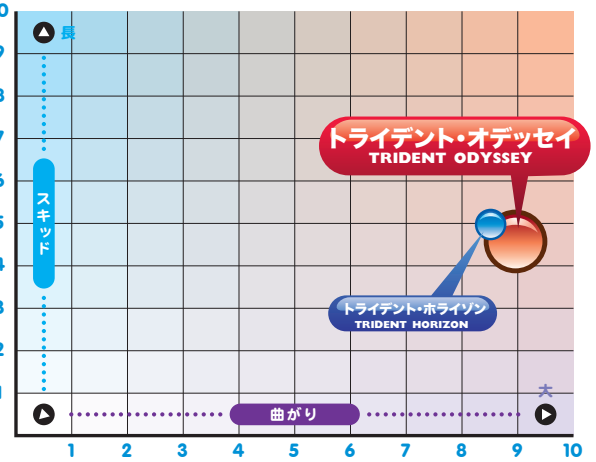
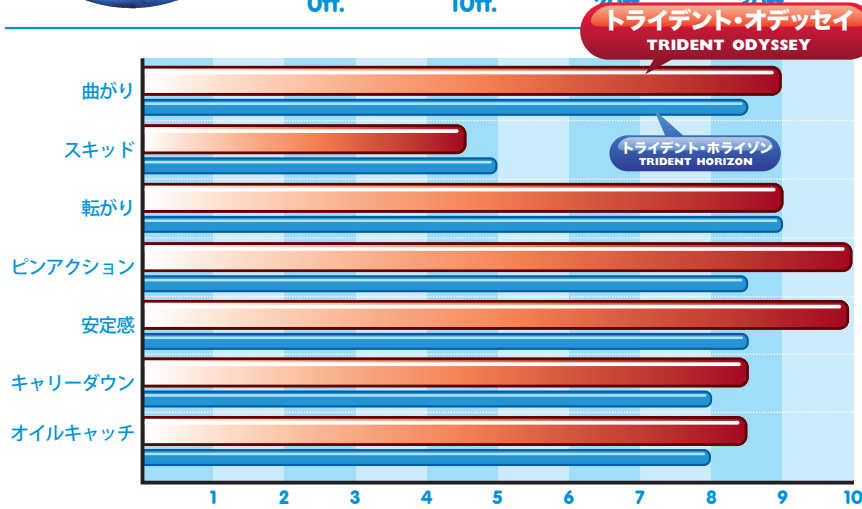
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 **4in 1/2** インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤 番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

アップデートされた新しいTRIDENT ODYSSEYは、TRIDENT NEMESISやTRIDENT HORIZONの開発コンセプトから一新し、低い慣性のコアと高いΔRGをもってはじめてから終わりまで”制御できるボール”として生まれ変わりました。まずはじめに、NEMESISやHORIZONで使用されていたSidewinderコアからABYSSまで使用されていたTurbulentコアに変わりました。Sidewinderコアは先の動きを重要視するコンセプトではイメージが湧きやすかったのですが、手前の転がり感、所謂オイルを多く感じるコンディションで手前から転がり感が欲しい場合には、日本人にはやや慣性が高かったのだと思います。それがTurbulentコアに戻ることで、序盤から中盤の転がりの良さが加わっています。そしてオイルに対して安定したキャッチの供給ができるCoercionカバーの最新アップデート版である、FYS(Full Yield Solid)Reactiveも同時に搭載され、投球者の手から離れた瞬間からピンヒットまですべてにおいて高いレベルで曲がりやピンコントロールすることができるボールとして仕上がっています。手前から転がるイメージは良く出ているが先の動きも大きく出ている、過激に反応するカバーというよりはキャッチを中盤から後半にかけて持続的に強く感じるのが投げた印象で、ゴリゴリのキャッチ系というよりは”万能型”のキャッチ系という、普段使っているボールがやや曲がりや足りない時に、すぐにイメージでき、候補にあがるボールだと思います。そして何より投球して一番印象に残ったのがピンの絡みの良さです。ジャストはもちろんのこと、特に薄めのアクションが絶品で、MOTIV史上1・2を争うと言っても過言ではないほどミキシング能力が優れています。TRIDENT ODYSSEYは限られたコンディションではなく、フランチャイズでちょっとオイルが多く感じるコンディションから幅広く使用できるので、メインボールのひとつ上のボールとして持っておくと重宝します。

特記事項

TRIDENTシリーズで一番汎用性が高く、メインボールのひとつ上のレベルのキャッチ系ボール。特にピンキャリアが違反レベルの飛びなので、このボールは見逃せません。